

## 富士山の火山活動解説資料（令和2年12月）

気象庁地震火山部  
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。  
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

### ○活動概況

#### ・噴気など表面現象の状況（図1）

萩原監視カメラ（富士山山頂の東南東約18km）による観測では、噴気は認められません。

#### ・地震や微動の発生状況（図2、図3）

火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しています。  
火山性微動や浅部の低周波地震は観測されていません。

#### ・地殻変動の状況（図4、図5）

GNSS連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。



図1 富士山 山頂部の状況（12月31日 萩原監視カメラによる）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（[https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)）でも閲覧することができます。

次回の火山活動解説資料（令和3年1月分）は令和3年2月8日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、中部地方整備局、国土地理院、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、山梨県及び神奈川県温泉地学研究所、公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています。

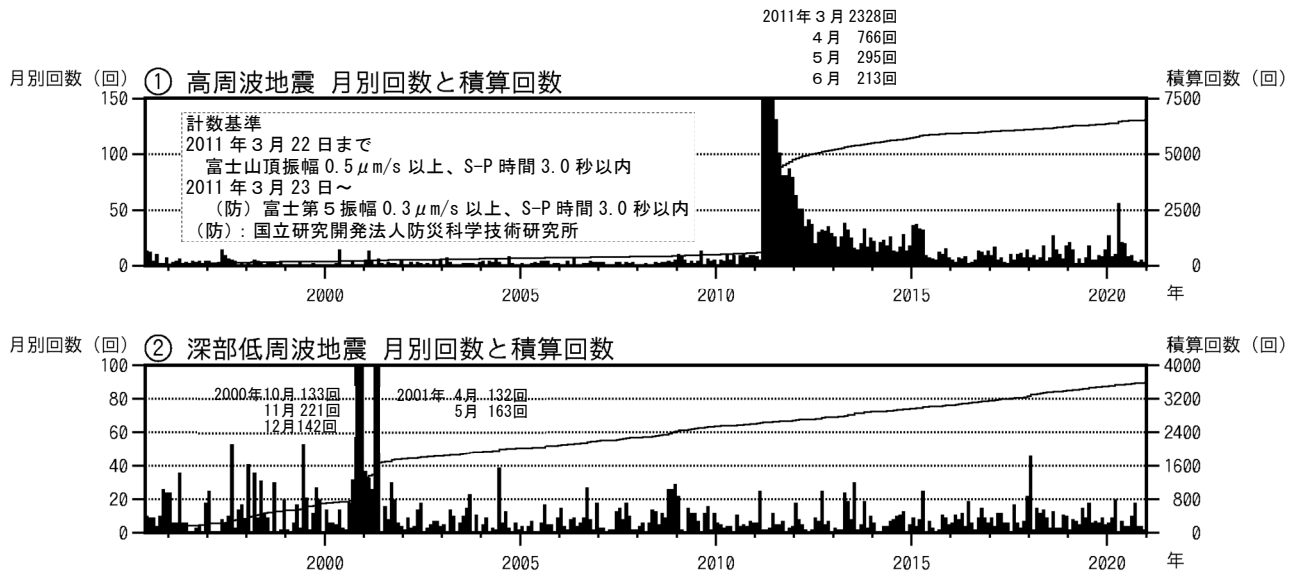


図2 富士山 月別地震回数（1995年6月1日～2020年12月31日）

- ・2011年3月15日に静岡県東部（富士山の南部付近）で発生したM6.4の地震以降、地震活動が活発な状況となっていました。2016年以降、発生前の状況には戻っていないものの、低調に経過しています。

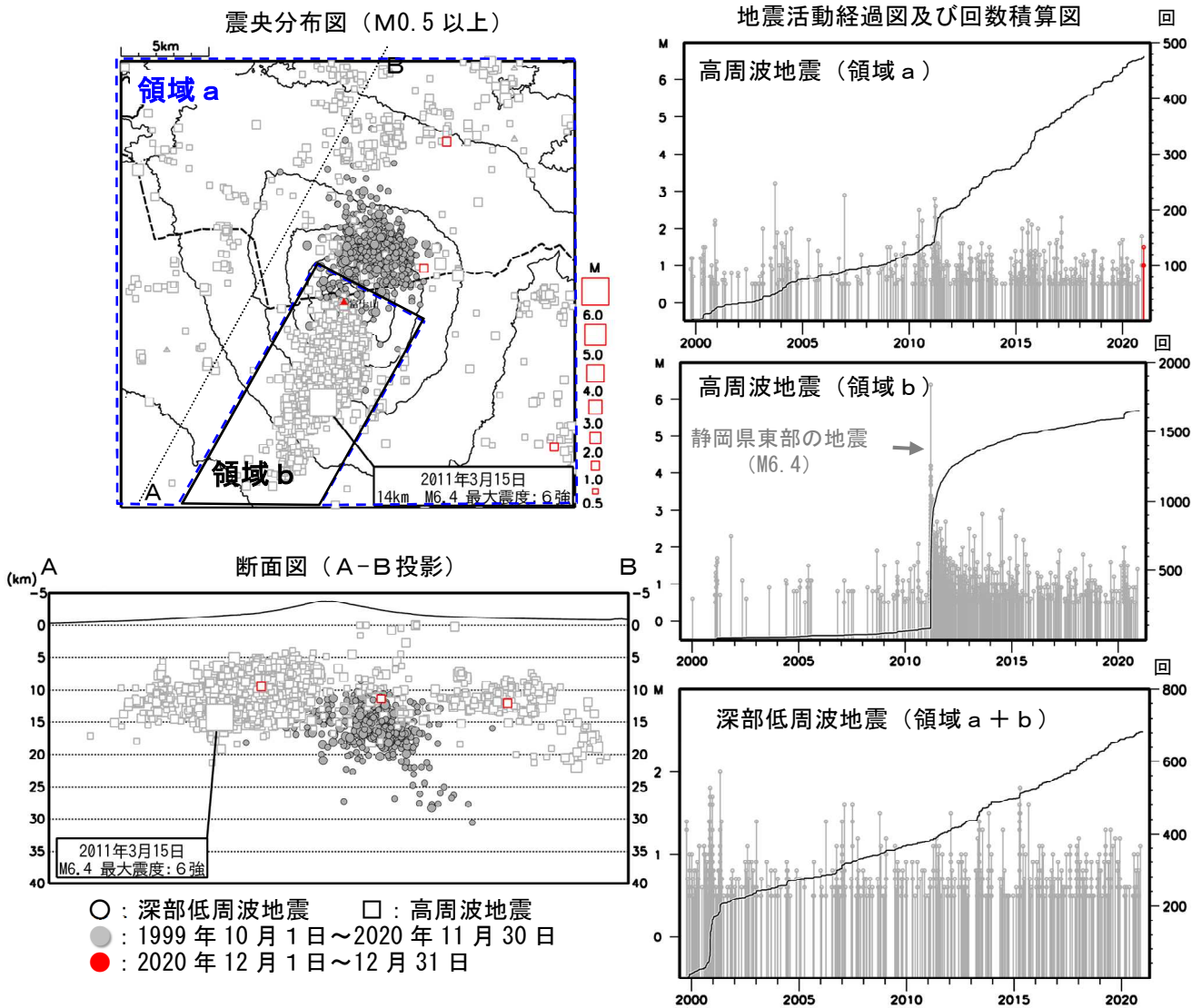


図3 富士山 広域地震観測網による山体及び周辺の地震活動(1999年10月1日～2020年12月31日)  
 広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。  
 M（マグニチュード）は地震の規模を表します。  
 図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。  
 2021年1月12日現在、2020年4月18日から10月23日までの地震について、暫定的に震源精査の基準を変更しているため、その前後の期間と比較して微小な地震での震源決定数の変化（増減）が見られます。

・火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しています。

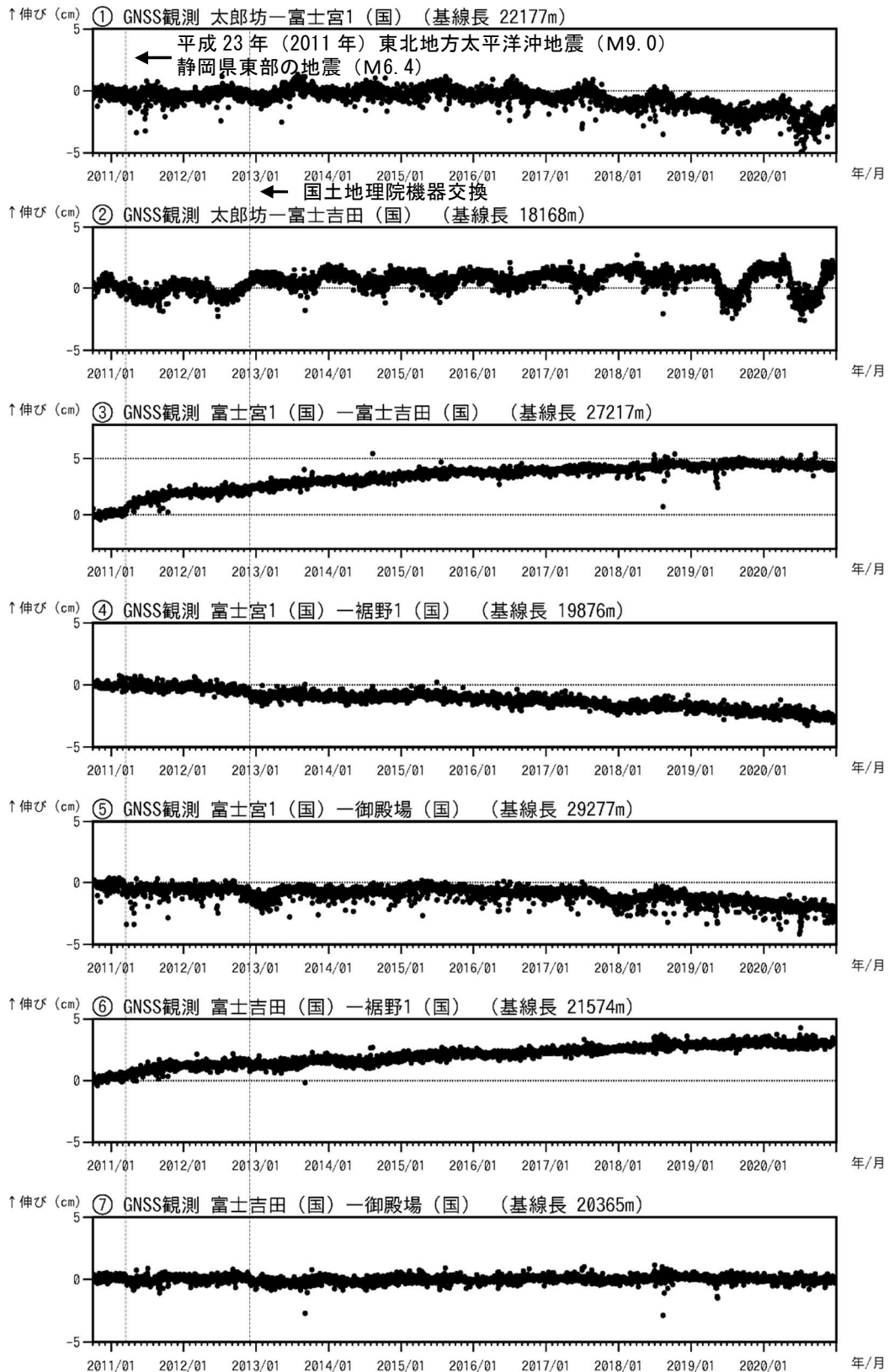


図4 富士山 GNSS連続観測による基線長変化 (2010年10月1日~2020年12月31日)

(国): 国土地理院

「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」及び2011年3月15日に発生した静岡県東部の地震(M6.4)によるステップ状の変化を補正しています。

①~⑦は図5のGNSS基線①~⑦に対応しています。

・火山活動によるとみられる変動は認められません。

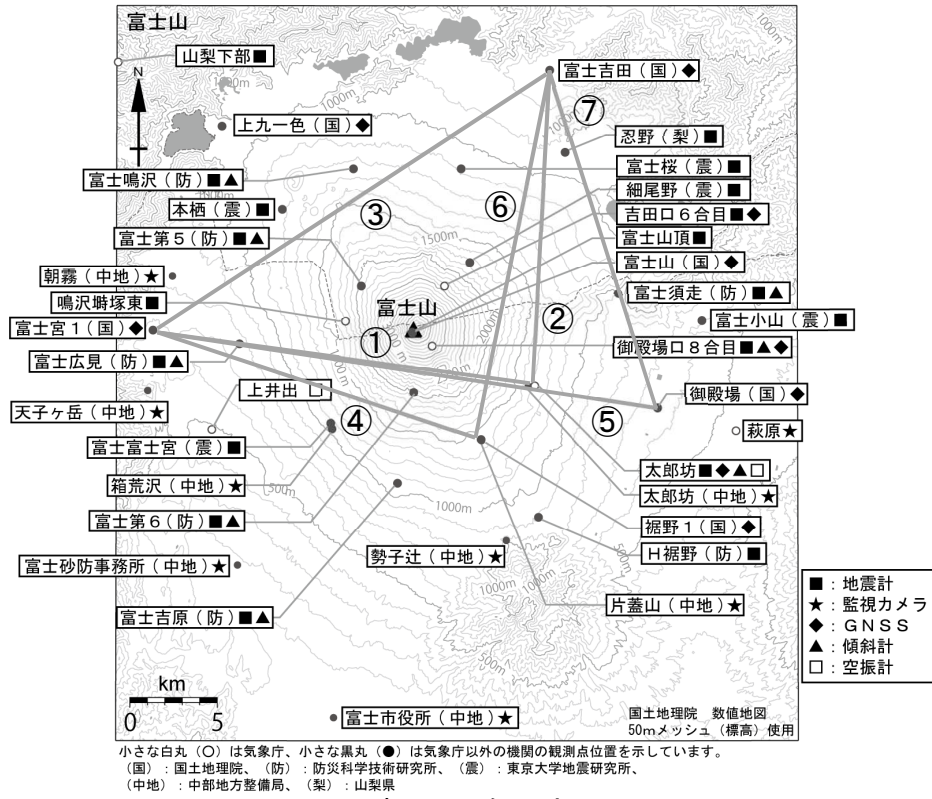


図5 富士山 観測点配置図  
 GNSS 基線①～⑦は図4の①～⑦に対応しています。